

平成29年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	31	学校名	静岡県立清水東高等学校 全日制	校長名	鈴木 照彦
評価	基準		評価	基準	
A	十分目標を達成することができた		C	あまり目標を達成することができなかった	
B	おおむね目標を達成することができた		D	ほとんど目標を達成することができなかった	

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	授業改善を進める （学ぶ意欲が高まり、志望大学に合格する学力が身に付く授業を行う） （公開授業、相互授業参観、ALの実践、授業評価、模試分析）	「授業が分かる」（80%以上） 「指導のレベルに満足」（80%以上）	「授業内容を理解できる」84.4%、「指導のレベルに満足」87.3%であった。	A	授業評価を年2回実施することにより、授業改善の意識付けができた。引き続きアクティブラーニングへの取組と、相互に授業を参観する機会を設けて、授業力向上に努めたい。
	授業、部活動、家庭学習のリズムを確立させる（学習時間調査、課題調整、部活下校19時）	週5日以上家庭学習に取り組む生徒95%以上 個人面談年3回以上	週5日以上家庭学習88.5%。 個人面談3回以上実施できた。部活下校時間が守れないことがあった。	B	成果目標変更の時期になった。生徒がより効果的な時間の使い方ができるようになることを目指し、調査方法や分析手法などを改善する必要がある。個人面談及び三者面談を通して生徒の生活、学習、進路について情報交換することができた。
	SSH事業を推進する	普通科課題研究の指導体制の充実 関連の全国大会へ出場	第4期申請が採択され、課題研究の充実と地域への普及活動に改善を加え実施することができた。	A	課題研究における「3C（批評・創造・継続）」の導入や「ちきゅう乗船会」の実施など、新たな取組ができた。 物理班の高文祭（宮城大会）出場、東海フェスタ優秀賞受賞をはじめ、全国レベルの活躍がみられた。
	読書の質と量を高める（各教科で読書奨励）	貸出数の向上	貸出数が昨年度に比べ219冊減（12月までで比較）と低迷している。	C	仮校舎から図書館までの距離に加え、生徒の動線や視線からも遠くなってしまい、貸出し数の減少につながった。本校舎に移動後「遠い」イメージを払拭できるかが課題である。
	国際性を育てる	研究旅行、英語授業改善、国際交流、「課題研究を英語で表現」の計画の確実な実施	3年SSHで英文HPの作成、英語での発表ができた。	A	第3期から始まったが、普通科3年生の全班が英文ホームページの作成及び英語による発表をおこなった。

様式第3号

ア	教育課程(週時程を含む)の研究をする	教育課程の課題の段階的な改善	50分授業への移行は滞りなく行なうことができた。	B	上意下達での実行であったので、意義・利点・欠陥等が、教員間に浸透しているかどうかを計測できていない。
イ	自主・自律の精神、思いやりの心、規範意識を育む	文化祭の満足度80%以上	文化祭の満足度87.4%仮設校舎・新体育館の利用方法を工夫し限られた環境でよく頑張った。	A	企画の充実を図ることができた。新校舎での実施に向け、利用のルール作りを行い充実した活動ができるようにする。
		清高琢徳プロジェクトの計画の確実な実施	年間3回エコリサイクル活動を実施した。モーニングセミナーを年間10回実施した。	A	エコリサイクルは、保護者、地域、教職員、生徒が一体となった活動ができた。年2回にして他のPTA活動にしてもよい。モーニングセミナーは、生徒の発表を増やしたい。
		1部活1ボランティアをすべての部活動で実施	ほぼ全ての部活動でボランティア活動ができた。	A	福祉委員会・生徒会執行部が中心となり声掛けをして実行することができた。今後個人的なボランティアを募っていけるようにしたい。
		ピアサポート年27回の研修実施	25回実施	A	コミュニケーション能力向上を実感し意欲的に取り組めた。保健委員以外の一般生徒に参加を拡大したい。
		清掃の監督・指導の確実な実施	年間24回水曜日美化委員による清掃活動実施 生徒への徹底	A	清掃箇所への監督指導のもとおむねしっかり取り組めた。新校舎においてもより美観を維持できるよう取り組んでいく。
		保護者・警察と交通安全指導年2回	PTA 警察の協力を得て2回登校指導を行った。	A	交通事故の件数は、減少させることができたが交通マナーに対する苦情が寄せられた。交通マナーの徹底を図りたい。
		いじめ防止対策基本方針の年間計画及びいじめへの確実な対処	計画通りアンケートを行い、面談により調査ができた。職員研修も実施した。	A	3学期は、まだ未実施であるが計画通りアンケートを行い早期発見に努めた。問題がありそうな事案について組織で対応することができた。
		生徒会やPTAでスマホの使い方指導の充実	年2回スマホ安全教室を開講した。	A	HR委員を中心に、生徒たちでスマホを安全に使うための方策を考え実施に移すことができた。

様式第3号

ウ	基礎体力を向上させる	体育の授業で計画的に取り組む(新体力テスト 10 位以内)	新体力テスト男子2位、女子6位。	A	最優秀校を目指して、来年度も補強運動に力を入れたい。
	充実した部活動を継続し、たくましい心身を育成する	部活動顧問会の開催、外部人材の活用、「清高健児を応援する会」による部活動支援等、全国大会5部活、県大会10部活以上	県大会は10部以上出場したが、全国は3部だった。外部指導者は有効に活用できた。	B	運動部・文化部とも文武両道のもと高いレベルで活動を行うことができている。来年度より下校時間の徹底が図られるため、より効率の良い活動を進めていく必要がある。
エ	高い志を育み、第1志望の大学合格率を向上させる	進路シラバスの作成と、学年段階に応じた進路カリキュラムに基づく指導の充実	学年ごとの進路ノートを活用し進路意識を高揚させる指導が実践できた。	A	学年ごと、また学期ごとの進路目標や学習計画を立てるよう指導した。 新テストに向けた取組を計画的に実践していきたい。
		進路行事(大学訪問、卒業生との交流会、進路ニュースの発行、特別指導、土曜講座、学習合宿等)の充実	多くの質の高い進路行事を実施し、進学意欲を喚起できた。	A	複数の国立大学訪問を実施したほか、特別指導、土曜講座、学習合宿、センター試験対策など様々な学習指導で成果をあげることができた。 卒業生と語る会、アプローチ、最新大学情報、などを発刊した。
		プロフェッショナルと語る会、文化講演会、芸術鑑賞教室等の充実	プロと語る会は、10人の講師を迎えて開催した。文化講演会、芸術鑑賞教室も生徒に好印象を与えた。	A	プロフェッショナルと語る会では、職業意識を育て、目標に向かって努力することが大切であると、生徒に気付かせることができた。
オ	災害時の備えを充実させる	一斉メールの加入前年度以上	ほとんどの生徒保護者に加入してもらい、浸透してきている。	A	災害時に活用できるよう、一斉メールを使った防災訓練なども考えていきたい。
		危機管理マニュアルの周知徹底(研修実施)	年度初めに全職員員に配布している。	A	今年度は仮設校舎用のマニュアルであったため、新たに新校舎用を一昨年のを基に作成したい。

様式第3号

オ	校舎改修工事の実施に伴う諸問題の対応に最善を尽くす(県の担当課、工事業者との綿密な打合せにより、円滑な実施を促進する)	教育活動と改修工事の両立するため調整を確実に実施	毎週の工程会議の内容を教職員へ情報提供した。	A	工事内容及び工事の進捗状況を共有することで、円滑な校舎改修工事が実施できた。
	施設の危険・破損個所の改修を迅速に行う	月1回の点検実施	月1回の点検を実施するとともに修繕要望に対して迅速に対応した。	A	点検の実施により破損個所等を迅速に把握することができた。今後も職員間の情報共有を密に行い危険個所の解消に努める。
	悩んでいる生徒を組織的に支援する	欠席が多い等の生徒の情報の共有・対処を毎月実施	担任会や学年主任会を定期的実施、情報は学年部全体で共有した。	A	保健部の協力や担任をはじめとする学年部の細かい指導により、早めの対応ができた。
カ	学校関係者、地域の中学生・保護者に学校の情報を発信する	ホームページのタイムリーな更新(週1回程度)、清高メールの発信	行事担当者への呼びかけで適時更新できた。	A	以前に比べて情報量の充実したHP、清高メールとなった。各分掌等のHP担当者が自主的に更新できるようにしたい。
		公開授業や1日体験入学の充実(多くの参加者確保)	公開授業、1日体験入学ともに昨年を超える参加者があった。	A	公開授業は仮設校舎にも関わらず、多くの参加者があった。引き続き本校の様子に直に触れていただける機会を大事にし、多くの参加者を募りたい。
		理科の不思議実験講座年3回実施	3回実施し、多くの中学生が参加した。大変好評であった。	A	体験実験に改善が図られた。指導する高校生にとっても、本校SSHの研究課題「伝える力の育成」に繋がっている。
		広報誌の作成配布(年2回)	学校通信は年3回作成し、配布した。	A	学校通信裏面の更新は年4回行い、新しい情報を提供できた。今後も意欲的に作成する。
		中学校訪問年2回実施	運営委員による中学校訪問が年2回できた。	A	本校の様子を伝え、中学校からの期待を知るよい機会であるので、今後も継続する。
学校行事や生徒会活動で地域貢献をする	文化祭などでの地域との連携やまんぷくコンサートの実施	地域との連携を積極的に取ることができた。	A	校舎改修の中、学校祭での清水特別支援学校との交流やまんぷくコンサートでの地域住民との交流を工夫し目的を達成することができた。	

様式第3号

カ	外部の方の意見を学校経営に生かす	学校評議員会、学校関係者評価委員会、コンプライアンス委員会の実施と意見の学校運営への反映	学習指導、部活動指導とも期待に沿えるよう業務を行った。	A	前年度の反省や年度当初の提言を元に学校運営を進めることができた。期待に応えようとして時間外勤務が増えないような工夫が求められる。
キ	教職員が資質の向上に努める	人事評価制度の効果的な実施(信頼できる先生がいると答える生徒80%以上)	学校経営目標に対して教職員が組織的に職務を遂行できた。信頼できる教員は84%。	A	教職員面談及び授業参観とも年2回実施し、職務に対する意識を高めることができた。信頼できる教員が昨年度より10%アップした。
		校内研修年3回、総合教育センターの研修、各教育研究会、予備校の講座等への参加	予定通り実施できた。多くの教員が研究会や講座に参加した。	A	大きな研修会を増やす時間的な余裕はないが、モーニングセミナー等の時間を利用し、効果的な研修を実施したい。
	教職員が危機管理意識、コンプライアンス意識を高める	計画的・効果的な不祥事根絶研修の実施(月1回)、不祥事0	月1回研修を実施し、不祥事もなかった。	A	職員会議時に資料をもとに研修を行い、意識付けできた。日常的に事例を取り上げた注意喚起を継続する。
	時間外勤務を縮減する	部活動の休日を設ける、定時退庁日の呼び掛け、勤務時間の割振りの徹底、時間外勤務を昨年度より縮減	部活動の休日は週1回以上、定時退庁日は月曜日と定めている。時間外や休日勤務の代休を積極的に設定した。時間外勤務は昨年度より減った。	A	生徒のためという理由で時間外勤務が多くなりがちだが、徐々に働き方改革の意識を持つようになってきた。今後はより意識を高め、体制を変えていく必要がある。
ク	教育目標に沿った学校経営予算の編成・執行を行う	管理職間の綿密な情報の共有、毎週管理職打合せ実施	随時管理職が集まり、情報共有できた。	A	課題を早期発見し、管理職間で方策を立て、組織的に課題解決できた。今後も継続する。
	法令に基づいて正確かつ迅速に事務を遂行する	監査・検査における指示・注意0件	「指示 0件」「注意 3件」	B	監査の「指示事項等」なし。例月の会計検査において、「注意事項」がないようチェック体制を強化する。